

大阪府ラグビーフットボール協会
理事長 村田 廣
普及育成委員長 尼田 勝彦
ミニ担当長 宮脇 美嗣

競技規則及び留意事項

《大阪市民まつりスクールミニ・ラグビーフットボール交流大会》

・本大会は平成20年度日本協会制定のミニ・ラグビー競技規則に基づき行います。

1. 本大会特別規則

- 試合時間は7分ハーフで行ない、ハーフタイムは2分とします。
- 移動時間も2分のため、試合終了後の相手チームベンチへの挨拶は無しとし、速やかに退場してください。
- 試合時間の関係上、ゴールキックは行ないません。(中学年)
- その他、20年度ミニ・ラグビー競技規則記載の各、注意事項に従い競技を行ないます。
- 細部については当日の代表者打ち合わせで調整します。
- 当日、本部前にて**8時40分**より代表者打ち合わせを行いますので、全スクール参加してください。
また、当日レフリーをされる方全員についても、**スタイルの上**(ジャージ・パンツ共白色、ストッキングはチームカラー)集合してください。

2. 競技上の注意

- レフリー・タッチジャッジをされる方については、「**レフリーの服装**」をしてください。
- 各チームキャプテンは、一つ前の試合のハーフタイムに本部に集合し、担当レフリーを交えて予めトスを済ませておいてください。
- 選手交代はハーフタイム時も含めて、必ずレフリーの了解を得交代すること。
- 選手はもちろんのこと、指導員のスパイクもゴムの固定式であること。
- タッチジャッジ役の指導員はレフリーを助け、タッチジャッジに専念してください。
- ウォーミングアップについては、次のチームのみ北側インゴールにて行ってください。
- グランド内での給水は**水のみ**とし、スポーツドリンク等は禁止します。

3. 安全対策に関して

- 各スクールとも保険加入された上でご参加ください。大会中に発生した負傷については、応急処置の外は責めを負いません。
- 新型インフルエンザと診断もしくは認められる選手は、各スクールの責任において出場の辞退を行ってください。

4. 観戦上の嚴重注意

- 試合当該チームの監督・コーチ・選手以外はスタンドで応援してください。
- 観戦中に出したごみは、個人で必ずお持ち帰りください
(各スクールのごみ責任者がゴミ袋を用意し、責任を持って持ち帰ってください。)

5. ご来場に関して

- 鶴見緑地球技場南側駐車場は、スクール代表・タグ専用となるため、一般の方は公園内別駐車場をご利用できますが、できるだけ公共交通機関でお越しください。

6. 「中止」の場合

- 荒天による中止の場合は、**午前7時**に申込責任者に連絡します。

7. 問い合わせ

- 普及育成委員会 ミニ担当長 宮脇 美嗣
090-2706-9517
Nalu-mahalo@maia.eonet.ne.jp
(緊急でない場合は、メールでの対応をお願いいたします。)

8. 本大会留意事項

キック

- ・ 幼2年は、プレーを開始及び再開するためのタップキック以外のキックは禁止であり、これに反した場合はキックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。
- ・ 3～4年は、ボールを手で保持した状況から以外のキック（地上にあるボールを蹴るようなキック）は禁止であり、これに反した場合はキックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。プレー中、ダイレクトタッチは10メートルライン内からのみ許される。しかし「フライキック」と言われるものは、いかなる地域でも違法である。そのようなキックが行われた場合、キックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。（「フライキック」とは、見境のないコントロールされないキックと定義される）

ゴールキック

- ・ トライ後のゴールキックは行わない。

ファールプレイ及びペナルティ

- ・ 防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回すプレー、ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりするプレー、フェンドオフ（腕を横に振り、相手を払い除けるようなプレー）はいずれも危険な行為であり、ファールプレイである。すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則があった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がるか、反則があった地点がゴールラインから5メートルない場合は、ゴールラインまで下がらなくてはならない。フリーキックも同様である。なおペナルティキックあるいはフリーキックにおいてタップキックするプレーヤーはボールを明確に蹴らなくてはならない。

タックル

- ・ タックルしたプレーヤーはすぐに相手を離し転退する。
- ・ タックルされたプレーヤーはすぐにパスするか、ボールを手放す。
- ・ アライビングプレーヤーは、倒れているプレーヤーの後方からボールに向かって立ってプレーする。ボールの位置から離れたスイープや頭が下がる突っ込み、ブリッジング、また、ボールの前で立ちはだかるオブストラクションはすべてPKである。
- ・ タックルされたプレーヤー、地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し、脚の間からボールを後方に押し出すプレー（スクイーズボール）は、どのような状況であろうと危険なプレーとしてPKをとる。
- ・ 脇から上のタックルはすべてハイタックルである。襟を持つことも危険なタックルであり、また、相手をつかまず突き倒すプレーや頭突き、相手を掴んで振り回す行為はタックルではなく、危険なプレーである。このようなプレーには厳しく対処し、退場やシン・ビンもありうる。

モール

- ・ 横あるいは後ろに動いている場合も停滞している状態である。5秒間停止した時、一旦停止したあと2度目の押しが止まった時、レフリーの指示に従い、すみやかにボールを出す。

ラック

- ・ ラックが成立すればボールを手で扱うことはできない。また、ハーフそれにかわるプレーヤーがボールに触れば、ラックは終了である。

その他

- ・ ジャージがはだけたり、ストッキングがずり落ちた状態でプレーしない。
- ・ ドレスチェックは行なわないので、各チームでスタイル、爪等をチェックすること。
- ・ ゲーム中は、レフリーから様々な指示の声がかかるのでその声に従う。